

若い女子がもつ「不安」および「キレル」の経験における質的分析について

A Survey Analysis of Anxiety and “kireru” Experiences of Young Women

伊豆田 義人・吉備津 未紗・千田 由希・西川 友子

Guido Izuta, Misa Kibitsu, Yuki Chida and Tomoko Nishikawa

要旨：本研究では、女子短大生に共通した「不安」と「キレル」の経験に着目し、質的な分析を行った。不安においては、「自身」、「対人関係」と「家族」の区分を設け、「不安」と「不安を感じ時」・「初めてその不安を感じたまたは意識した時期」との関係性を調べた。次に、経験した「キレル」をもとに、その概念や引き金になる言動、第三者の立場で「キレた」場面における洞察を分析した。なお、この研究は、若い人が抱えている様々は感情や行動パターン等を理解するために役立つと考えられる。

キーワード：不安、キレル、質的分析

1 はじめに

本研究の目的は、女子短大生がこれまで経験した「不安」と「キレル」について検討することである。そのためには、ここでは、学生たちがもつ概念と経験を事前にヒアリングという形で調べた後、それをもとに後述のアンケート調査を実施し、検討したが、その過程ならびに背景の範疇は多岐にわたるものである。

不安において、一般的な概念は『恐ろしいものに脅かされているという感情。現実には恐れる対象がはっきりしている恐れとは異なり、その原因は本人にも明瞭でない』（ブリタニカ 2012）であり、また心理学的には『自己価値を脅かすような破局や危険の漠然とした予感』（中島ら編集 1991）である。このように人間の感情の一つとして位置づけられているだけに、その研究は、昔今、多方面から進められ、重要視されてきている。事実、人間の根本的な要素であることを主張した研究は数多くあり、学際的な方法論の下で「不安」の実存論的学概念を論じたキェルケゴール【Soren Aabye Kierkegaard、1813～1855】の哲学（飯島 1974）をはじめ、個人の価値が脅かされた経験に起因する危機感、そしてそれが惹起する反応として捉える実存心理学のメイ【Rollo May、1909～1994】の学説（小野 1973）等の理論は周知の通りである。

しかしながら、日常生活の中での不安を考慮すると、それは多種多様で、それぞれの着眼対象・題材には無数の側面が存在するため、実験や調査で網羅できている範囲および得られた知見は比較的にはわずかであるといっても過言ではない。そんな中、対人関係に対する不安の調査研究は、主に若い人を対象として、盛んに行われている。たとえば、市川らは対人不安場面と生理現象との関係について考察し（市川 2007）、角尾は不特定他者に対する不安傾向を調べ（角尾 2003）、松田らは大学生の被験者における対人不安の特徴を調査した（松田 1999）。児童が抱える不安については南らの報告があり、その内容は、小学

生を対象とし（南 2011）。一方で、中高年者のキャリアや職業への不安は、中年の心理的危機と不安の関係（松尾 2007）や都市での老後に対する不安（直井 2005）についての報告で取り上げられている。

なお、モデル構成の研究は、不安は直接的な経験のみならず、様々な要素がそろった時に芽生えることを示唆している（Schlenker 1982）。このような研究指針の枠組みに当てはまる鳥インフルエンザを社会事象とした不安のモデル化（山崎 2004）等の研究が進められている。これは、将来的な社会事象を想定した情報は、個人の価値を脅かすものと捉えられ、不安へと変わると推察できよう。

不安を対象とした本調査においては、「自身」、「対人関係」と「家族」の三つの分類からなり、それぞれはいくつかの不安事を念頭においているが、協力者は普段その不安を感じるまたは意識する場面およびそれを初めて感じた時期を回答するので、不安と「時」との関係調べている。そのためには、予備調査にて、女子短大生に共通した不安事として認められたもの、自身の老後のような比較的遠い将来ではあるがマスコミ等で頻繁に取り上げられるもの等を選定し、調査項目を構成している。

他方で、「不安」とは異なり、「キレル」という現象の研究は比較的新しいもので、その概念・定義も1990年代以降に掲載されるようになり、種々の表現で特徴づけられているものの、自制心が効かず衝動的に行動するというは点で共通する（森口 2013）。この現象が脚光を浴び始めた背景には、ごく普通の中学生や高校生が衝動的な事件を起こし、社会全体に大きな衝撃を与えたことがある（牧田 2006）。このような状況下で、就学期の子どもの「キレル」は調査や研究等が活発に行われているほか、教育現場での対応マニュアル等も編集されている（栃木県総合教育センター 2006）。ちなみに、小中学生を対象とした調査には、「キレル」経験、学校生活と親についての質問をし、分析して、「キレル」を陽に考えているもの（大石 1999）や攻撃行動の心理学的分析（米澤 2007）、子供の心理的な特徴づけ（落合 2008）等の諸見地からの報告がある。さらに、大学生を対象にした研究も発表されている。たとえば、回答者をもつ「キレル」の概念を分析したもの（和田 2003）や、衝動抑制に関する調査（久保 2009、松尾 2000）、行動と感情の関係を考察した検討がある（竹端 2010）。

以上のことを踏まえ、本研究では、今の若い女子が持つ「キレル」の概念とその引き金になる言動や、第三者の立場で「キレた」場面における洞察を調べるため、事前に女子短大生を対象とした予備的な聞き取り調査を実施し、共通な経験になっている部分のみに重点をおいて調査項目を設けている。

2 方法

2.1 調査対象者

主に東北地方出身の、1・2年の女子短大生で、「不安」の回答者数は42名で、「キレル」は45名である。

2.2 データ収集

調査は2015年11～12月の間である。調査方法は次の通りである。事前に依頼した上で、授業時間の初めに教室へ行き、口頭で文面に記載の研究目的等を説明し、協力を依頼した。快諾した自主参加者はアンケート用紙に記入した。

3 「不安」調査の分析結果

ここでは、付録にある調査項目を集計しグラフにした結果を紹介する。図1（上段）グラフの横軸は「Q3.1 あなたが自分の健康面で不安を感じるのはどんなときですか？」の回答で、縦軸は回答者の人数である。また、これらの縦棒グラフの中に積み上げられた棒グラフは、「Q3.2 あなたが自分の健康面で不安にいつ感じはじめたか？」の回答である。グラフより容易にわかるように「Q3.1」に対してもっとも多かったのが「5.疲れているとき」であり、その人数は21名で全体の46.7%を占めている。また、その内の9名（全体の20.0%）は「5.中学校」の時に、それに次ぐ「6.高校」と「7.短大（一人暮らし）」にその類の不安をはじめて感じたとは回答したのは共に3名で（全体の6.7%）である。次に、「Q3.1」の回答で2番目に多かったのは6人（全体の13.3%）を記録した「8.対人関係がうまくいかないとき」で、その内の4名（全体の8.9%）は「5.中学校」に感じ始めている。ここで、感じ始めた時期のみに着目して集計をすると、「5.中学校」は42.2%で「4 小学校高学年」は15.6%となり、半分以上を占めることが分かる。

図1（下）は「Q4.1 あなたが自分の進路について不安を感じるのはどんなときですか？」と初めて感じた時期に対応する「Q4.2」である。「Q4.1」の回答で最も多かったのが、29名（全体の64.4%）の「2.この話題で話しているとき」で、2番目に多かったのは8名（全体の17.8%）の「1.突然」である。感じ始めた時期に関しては、「6.高校」の合計が最も大きく全体の44.4%（20名）で、二番目の「5.中学校」の全体の35.6%（16名）と合わせると全体の80%にも及ぶ。また、興味深い点としてあげられるのが、「1.突然」の中では、「5.中学校」の方が「6.高校」よりやや上回っていることである。

図2（上）は「Q5.1 あなたが自分の老後について不安を感じるのはど

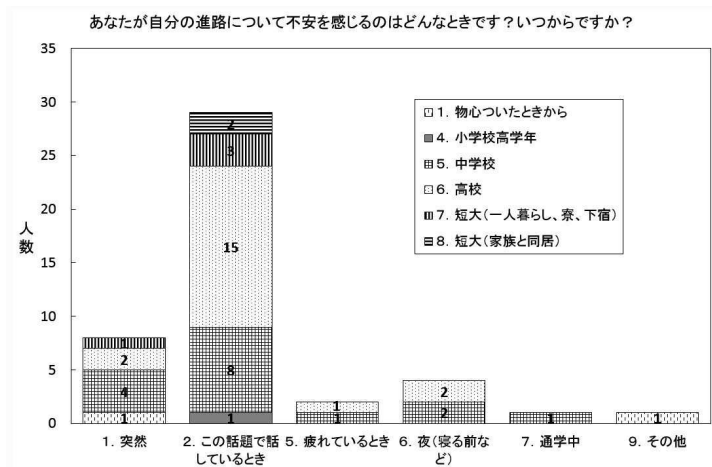
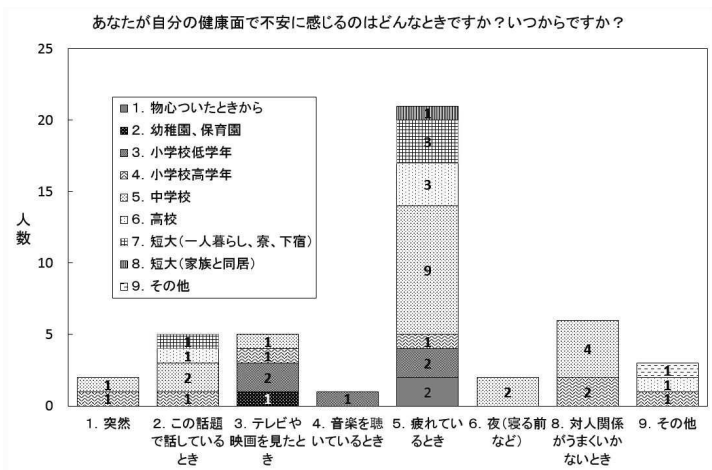


図1（上）質問3.1と3.2。（下）質問4.1と4.2

んなときです？」と「Q 5.2」を組み合わせたグラフである。「Q5.1」の回答は「2.この話題で話しているとき」(29.6%)、「3.テレビや映画を見たとき」(18.2%)と「1.突然」(15.6%)の順になっている。はじめて感じた時期においては、上位は「6.高校」の40.0%と「7.短大(一人暮らし)」の15.9%である。また、「Q5.1」で「6.夜(寝る前など)」(13.6%)の回答者の半分は「5.中学校」のときにはじめてその不安を感じている。

さて、図2(中)の質問事項は「対人関係」に関する調査であり、「Q6.1 あなたが初対面の人と会うことについて不安を感じるのはどんなときですか？」と「Q6.2」からなる積み上げ棒グラフである。「Q6.1」の回答は、「2.この話題で話しているとき」の48.9%と「1.突然」の33.3%である。また、その不安を初めて感じたのは、「4.小学校高学年」(26.7%)と「5.中学校」(22.2%)の高い順になっている。しかし、これらの回答は「Q6.1」の「1.突然」の中で下位の割合を占めている。ついであるが、「1.突然」は、「1.物心ついたときから」の回答件数が最も多く、

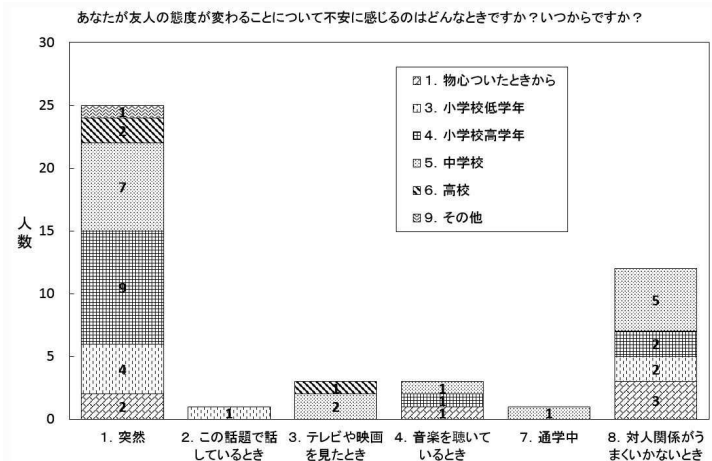
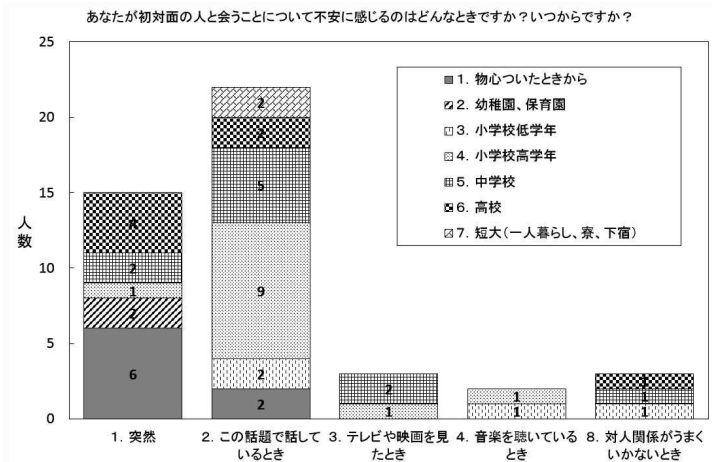
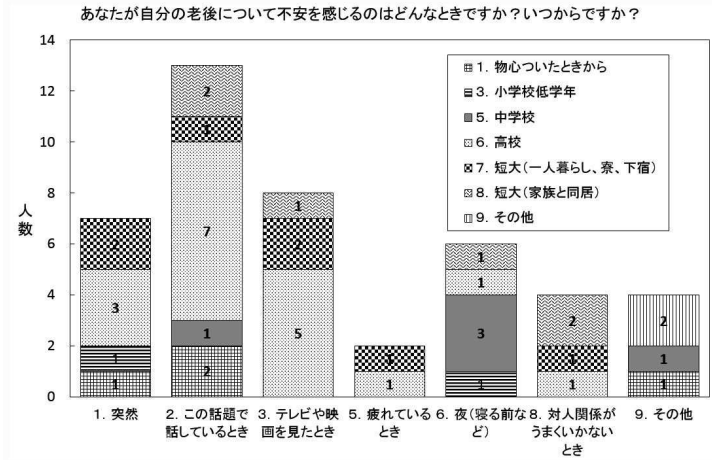


図2 (上) 質問5.1と5.2。(中) 質問6.1と6.2。(下) 質問7.1と7.2

全体の13.3%から構成されている。

図2(下)の「Q7.1 あなたが友人の態度が変わることについて不安を感じるのはどんなときですか?」と「Q7.2」をその内訳としたグラフである。横軸の「1.突然」の55.6%と「8.対人関係がうまくいかないとき」の26.7%が顕著に突き出ている。「Q7.2」の回答全体においては、「4.小学校高学年」の20.0%と「5.中学校」の15.6%が上位に連なっている。

図3(上)の横軸は「Q8.1 あなたが友達と意見などが合わなくなる不安を感じるのはどんなときですか?」で、「1.突然」がもっとも多く、全体の66.7%を占めている。その中で、全体の26.7%を記録した「5.中学校」が最も多い回答になっている。

ところで、図3(中)の質問事項以下は「家族」に対する不安である。「Q9.1 あなたが家を継ぐことについて不安を感じるのはどんなときですか?」に対する回答は、「1.突然」(39.5%)、「4.音楽を聴いているとき」(27.9%)と「9.その他」(20.9%)に代表される。それぞれの内訳の中でもっとも多いのは、「6.高校」(14.

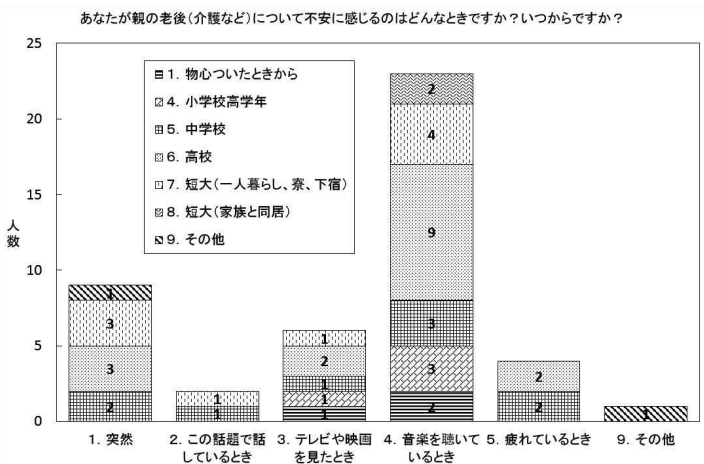
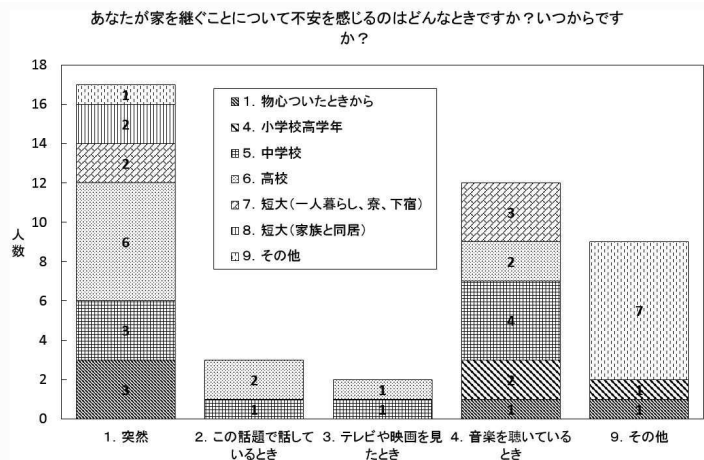
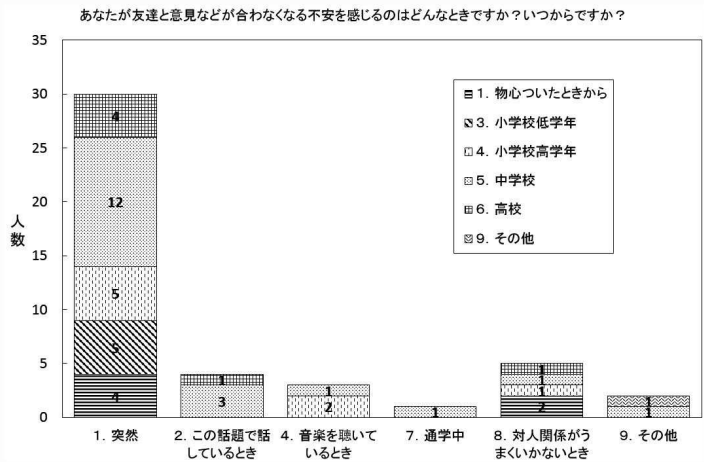


図3(上) 質問8.1と8.2。(中) 質問9.1と9.2。
(下) 質問10.1と10.2

0%)、「5.中学校」(9.3%)と「9.その他」(16.3%)である。なお、「Q9.2」の回答全体で見ても、やはり「6.高校」(25.6%)、「5.中学校」(20.9%)と「9.その他」(18.6%)の大きい順になっている。

図3(下)は「Q10.1あなたが親の老後(介護など)について不安に感じるのはどんなときですか?」と「Q10.2」の積み上げ棒グラフである。横軸の「4.音楽を聴いているとき」が半分以上(51.1%)を占めている。その後には20%の「1.突然」と13.3%の「3.テレビや映画を見たとき」が続く。「Q10.2」の回答全体の集計により、「6.高校」(35.6%)、「5.中学校」(20.0%)と「7.短大(一人暮らし、寮、下宿)」(20.0%)が上位に高い順に並んでいる。

4 「キレル」調査の分析結果

「キレル」の調査票は付録にある項目により構成されている。ここでは、質問事項を組み合わせグラフにしている。まず、図4(上)は、「Q1「キレル」という言葉から連想される言動はどれですか?」の回答の割合を示す。それらは、「2.引き金となった人に怒鳴る」(52.4%)、「6.無言」(23.8%)、「3.不特定多数に怒鳴る」(19.0%)と「1.物にあたる」(4.8%)の大きい順になっている。

図4(下)は、「Q2」と「Q3」の結果である。いずれも、「6.ストレスがたまっていた」の割合が最も高く、Q2では59.2%でQ3では38.1%である。また、その次の「5.友人との言い合い」はQ2では21.4%で、Q3では35.7%になっている。Q2とQ3の回答の割合にはやや開きはあるものの、回答の傾向には類似のパターンが主観的に見られる。

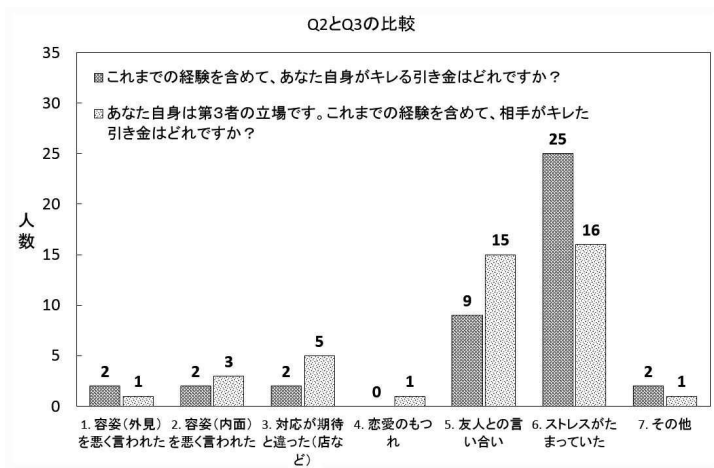
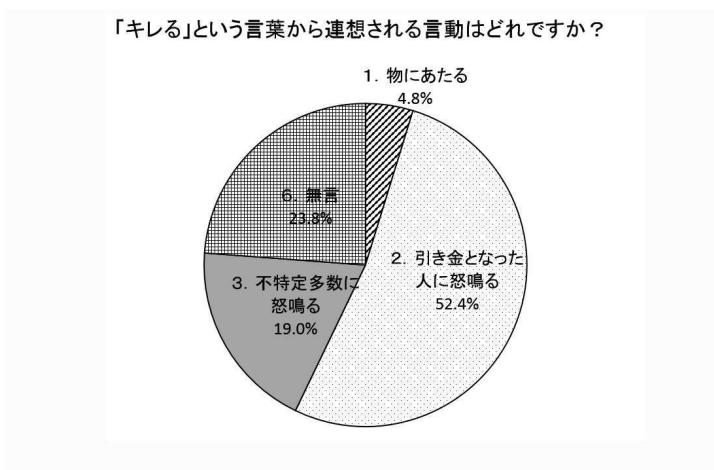


図4(上) Q1。(下) Q2とQ3

図5（上）は“キレた”後、関係の修復に要する時間を表したグラフである。相手に原因がある場合と回答者自身が原因で関係がこじれた場合のどちらにおいても、「3.1日」が最も多く、それぞれ52.4%と50.0%になっている。またこの回答を中心にグラフは左右にやや対称的に分布することが確認できる。

図5（中）は、回答者が“キレた”原因と立ち直る方法を図示している。ここで、もっとも多かった原因は、「6.ストレスがたまっていた」が最も多く、全体の60%を占めている。全回答における立ち直る方法の上..位は、「2.寝る」（28.6%）、「1.友人に話す」（23.8%）と「6.気分転換（一人で）」（21.4%）により構成されている。最後に、図5（下）は、第三者として他人の“キレル”場面の原因とその時の雰囲気への回答を示す。「Q8」の質問では、「3.どちらも悪い」が最も多く、全体の57.1%がこの回答を選んでいる。一方で、「Q9」では「2.大いに居づらく、どこか別の場所に行きたいと思った」が全体的に最も多く、回答者の40.5%を占めている。

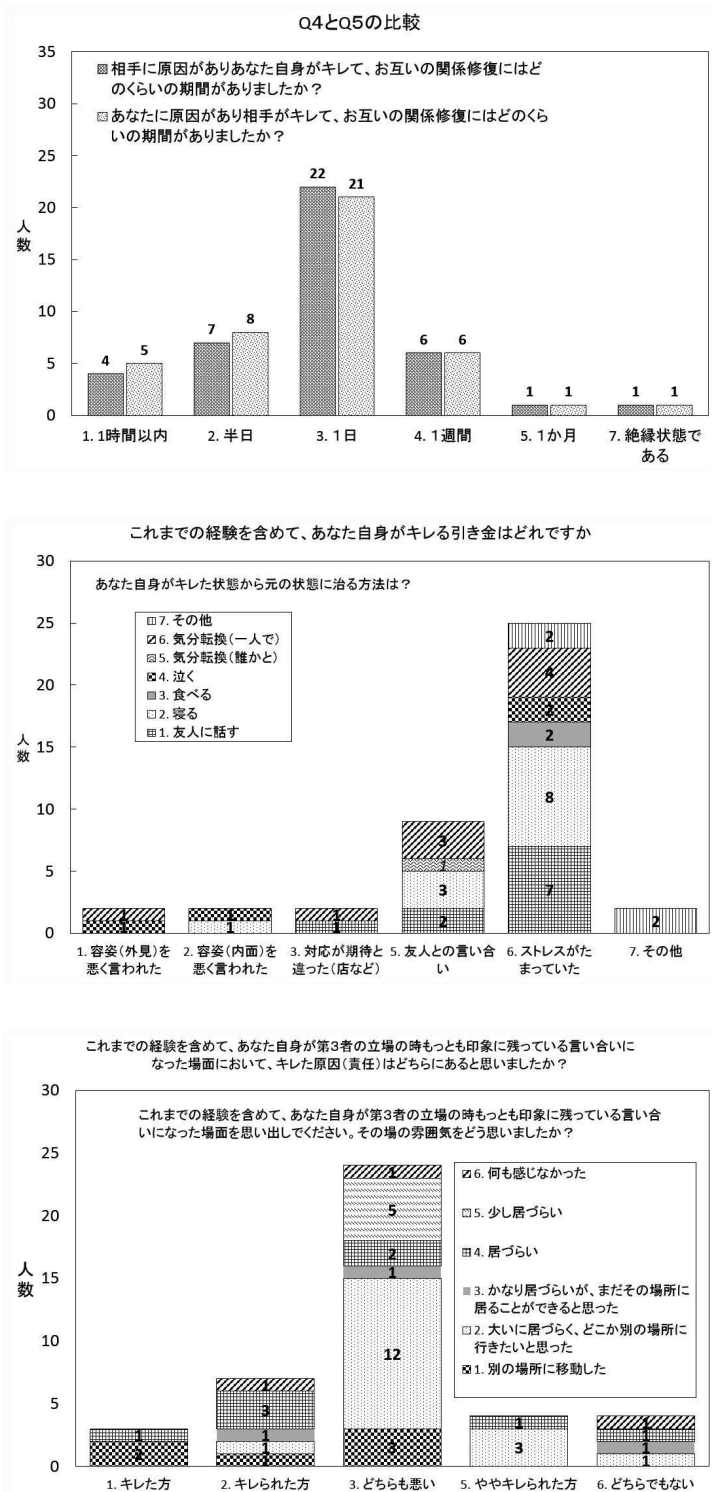


図5（上）Q4とQ5。（中）Q6とQ7。（下）Q8とQ9

5 おわりに

「不安」の調査において「自身」のことで不安を感じる時は、健康面に対しては「疲れているとき」、進路と老後に対しては「この話題で話しているとき」である。後者は、前述のように回答者はその話題で話している時に種々の情報を取捨選択していく中で、それに対する不安のモデルを徐々に形成していると考えられる。とりわけ、回答者自身の老後に関しては、「突然」や「テレビや映画を見たとき」、「夜（寝る前など）」等の時にも感じているので、自身の健康と進路より不安を感じるきっかけが多いと思われる。次に、「対人関係」については、先行報告（南 2011）のように小学校から中学校にかけて感じ始めている。その中で、そのような不安を感じる時として「突然」が顕著にあらわれる。一方、「家・家族」に関する不安は、「突然」のほか、「音楽を聴いている」時に感じている。なお、図6には、ここで取り上げた不安を感じ始めた時期を示す。

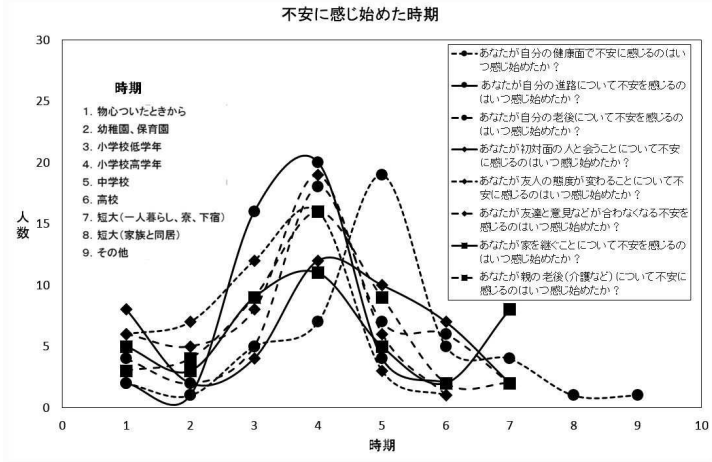


図6 「不安」を初めて感じた時期のまとめ

ところで、「キレル」の調査では、“キレル”を表す言動としては、引き金になった人に“当たる”と“他に対する言動”の二つに分かれている。また、「自身」と「他者」の“キレル”の引き金は類似のパターンを示す。最後に、図7は因子分析の負荷量で、マイクロソフト社エクセルのアドインで求めたものである。これらより、Q5・Q4、Q1・Q3・Q7、Q6とQ2の組み合わせで第1因子～第4因子を代表することがわかる。

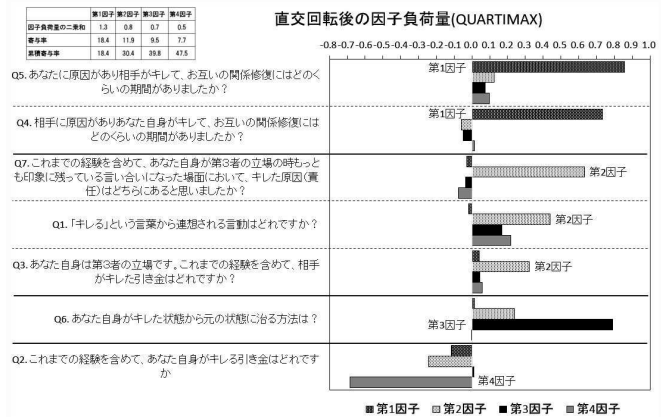


図7 「Q1」～「Q7」の因子分析・QUARTIMAX直行回転後の負荷量

謝辞

調査項目の選定およびデータ収集にあたり、平成27年度ゼミの加藤愛未さん、橋本佳奈さんと長南恵美さんに大変お世話になりました。ありがとうございました。授業の時間にアンケートの実施にご協力くださった諸先生方をはじめ、アンケートに回答してくださった皆様に感謝の意を表します。

参考・引用文献

- ブリタニカ『ブリタニカ国際大百科事典 小項目事典の項目』2012
- 中島 義明（編集）、子安 増生（編集）、繁舩 算男（編集）、箱田 裕司（編集）、安藤 清志（編集）、坂野 雄二（編集）、立花 政夫（編集）『心理学辞典』有斐閣、1991
- キェルケゴール（著）（斎藤 信治 訳）『不安の概念』岩波書店、1979
- メイ（著）（小野 泰博 訳）『不安の人間学』誠信書房、1973
- 市川 優一郎、齋藤 慶典、依田 麻子『対人不安場面における自己呈示効力間の低下が心臓血管活動および心理的反応に与える影響』行動医学研究、13、1、14-22、2007
- 角尾 美奈『対人不安傾向の再検討—不特定の他者に対する不安傾向と特定の他者に対する不安傾向—』東京家政大学研究紀要、43（1）、167-173、2003
- 松田 君彦、樺山 麻衣子『青年期における対人不安に関する研究』鹿児島大学教育学部研究紀要 人文・社会科学績、50、167-183、1999
- 南 雅則、浅川 潔司、秋光 恵子、西村 淳『小学生の予期不安と中学校入学後の学校適応間との関係に関する学校心理学的研究』教育心理学研究、59、144-154、2011
- 松尾 洋平、渡辺 三枝子『現代の中年職業人が抱く不安感と心理的危機』経営行動科学、20-2、155-168、2007
- 直井道子『都市における老後の不安』季刊・社会保障研究、41-1、12-21、2005
- Barry R. Schlenker, Mark R. Leary『Social Anxiety and Self-Presentation: A Conceptualization and Model』Psychological Bulletin, Vol. 92, No. 3, 641-669, 1982,
- 山崎 瑞紀、市川 肇子、堀井 秀之『社会事象に関する不安喚起モデル構成の試み—高病理性鳥インフルエンザを例として』社会技術研究論文集、2、379-388、2004
- 森口 由佳子、村井 俊哉、福山 秀直『キレルとは一定義と概念モデルからの検討—』大阪市立大学看護学雑誌、9、53-57、2013
- 牧田浩一『「キレル」心性とトラウマ的体験との関連』鳴門教育大学研究紀要、21、77-82、2006
- 栃木県総合教育センター『キレル子どもの理解と対応』栃木県総合教育センター、(学級・ホームルーム担任のための教育相談 第14集)、2006
- 大石 英史『現代の“ムカつき”“キレル”中学生の心理』山口大学教育学部附属教育実践総合センター研究紀要、10、107-118、1999
- 米澤 好史『こどもの攻撃行動の心理学的分析と関係性支援』和歌山大学教育学部教育実践総合センター紀要、17、49-59、2007
- 落合 正行、石王 敦子、井上 知子『子どもの心理的特徴に関する調査1—5・6年生における自己意識と統制感、自己制御、ストレス対処との関係—』追手門学院大学 地域支援心理研究センター紀要、31-60、2008
- 和田 志麻、加藤 和生『「キレル」の素朴概念の質的分析』九州大学心理学研究、4、177-186、2003

久保美沙子、蔵永瞳、樋口匡貴、深田博己『大学生におけるキレ衝動抑制方略の効果』広島
大学心理学研究、9、145-157、2009

松尾 美佐子、熱田 信一『若い成人の「キレる」衝動制御に関する基礎的研究—アタッチメ
ント概念による半構造化面接を用いた質的探究—』九州看護福祉大学紀要、12
-1、103-113、2000

竹端 佑介、永田 陽子『大学生における「キレ」行動と「キレ」感情に関する研究—質問紙
からの検討—』駒澤大学心理学論集、12、7-12、2010

付録

【不安の調査項目】

下の左図は設問事項を表す。アンケート用紙にある、性別や年齢、家族構成等の情報を記入する欄のデータは結果のグラフには示されていない。それは、質問3～10は質問1～2の回答と特別な関係が認められなかったためである。つまり、質問3～10の回答は、家族構成や兄弟の人数や世帯に依存せず、全体と同じ傾向であったということである。

右図は質問の選択肢を表す。ただし、「どんなとき？」にある選択肢は質問3.1、4.1、5.1、6.1、7.1、8.1、9.1と10.1のそれであるのに対し、「いつ感じ始めたか？」は質問3.2、4.2、5.2、6.2、7.2、8.2、9.2と10.2に共通する選択肢を意味する。

質問1	あなたの家族構成について教えてください。	質問1	1. いる 2. いない	
質問1.1	あなたは兄弟の中で何番目ですか？	質問1.1	1. 一番目 2. 二番目 3. 三番目 4. 四番目 5. その他	
質問1.2	あなたの兄弟の人数を教えてください。			
質問2	あなたの家は何世帯ですか？			
質問3.1	あなたが自分の健康面で不安を感じるのはどんなときですか？			
質問3.2	あなたが自分の健康面で不安にいつ感じ始めたか？	質問1.2	1. 兄 2. 姉 3. 弟 4. 妹	
質問4.1	あなたが自分の進路について不安を感じるのはどんなときですか？	質問2	1. 一世帯 2. 二世帯 3. 三世帯 4. 四世帯 5. その他	
質問4.2	あなたが自分の進路について不安にいつ感じ始めたか？			
質問5.1	あなたが自分の老後について不安を感じるのはどんなときですか？			
質問5.2	あなたが自分の老後について不安にいつ感じ始めたか？			
質問6.1	あなたが初対面の人と会うことについて不安を感じるのはどんなときですか？			
質問6.2	あなたが初対面の人と会うことについて不安にいつ感じ始めたか？	どんなとき？	1. 突然 2. この話題で話しているとき 3. テレビや映画を見たとき 4. 音楽を聴いているとき 5. 眠れているとき 6. 夜（寝る前など） 7. 通学中 8. 対人関係がうまくいかないとき 9. その他	
質問7.1	あなたが友人の態度が変わることについて不安を感じるのはどんなときですか？			
質問7.2	あなたが友人の態度が変わることについて不安にいつ感じ始めたか？			
質問8.1	あなたが友達と意見などが合わなくなる不安を感じるのはどんなときですか？			
質問8.2	あなたが友達と意見などが合わなくなる不安にいつ感じ始めたか？			
質問9.1	あなたが家を継ぐことについて不安を感じるのはどんなときですか？		いつ感じ始めたか？	1. 物心ついたときから 2. 幼稚園、保育園 3. 小学校低学年 4. 小学校高学年 5. 中学校 6. 高校 7. 短大（一人暮らし、寮、下宿） 8. 短大（家族と同居） 9. その他
質問9.2	あなたが家を継ぐことについて不安にいつ感じ始めたか？			
質問10.1	あなたが親の老後（介護など）について不安を感じるのはどんなときですか？			
質問10.2	あなたが親の老後（介護など）について不安にいつ感じ始めたか？			

【「キレル」の調査項目】

下図は、「キレル」の調査票に掲載した項目である。また、回答者に配布したものには、性別や年齢の基本的な情報の部分もあったが、ここには載せていない。

Q1 「キレル」という言葉から連想される言動はどれですか？
1. 物にあたる
2. 引き金となった人に怒鳴る
3. 不特定多数に怒鳴る
4. 引き金となった人に暴力をふるう
5. 不特定多数に暴力をふるう
6. 無言
7. その他

Q2 これまでの経験を含めて、あなた自身がキレル引き金はどれですか
1. 容姿(外見)を悪く言われた
2. 容姿(内面)を悪く言われた
3. 対応が期待と違った(店など)
4. 恋愛のもつれ
5. 友人との言い合い
6. ストレスがたまっていた
7. その他

Q3 あなた自身は第三者の立場です。これまでの経験を含めて、相手がキレた引き金はどれですか？
1. 容姿(外見)を悪く言われた
2. 容姿(内面)を悪く言われた
3. 対応が期待と違った(店など)
4. 恋愛のもつれ
5. 友人との言い合い
6. ストレスがたまっていた
7. その他

Q4 相手に原因がありあなた自身がキレて、お互いの関係修復にはどのくらいの期間がありましたか？
1. 1時間以内
2. 半日
3. 1日
4. 1週間
5. 1か月
6. 1年以上
7. 絶縁状態である

Q5 あなたに原因があり相手がキレて、お互いの関係修復にはどのくらいの期間がありましたか？
1. 1時間以内
2. 半日
3. 1日
4. 1週間
5. 1か月
6. 1年以上
7. 絶縁状態である

Q6 あなた自身がキレた状態から元の状態に治る方法は？
1. 友人に話す
2. 寝る
3. 食べる
4. 泣く
5. 気分転換(誰かと)
6. 気分転換(一人で)
7. その他

Q7 これまでの経験を含めて、あなた自身が第三者の立場の時もっとも印象に残っている言い合いになった場面において、キレた原因(責任)はどちらにあると思いましたか？
1. キレた方
2. キレられた方
3. どちらも悪い
4. ややキレた方
5. ややキレられた方
6. どちらでもない
7. その他

Q8 これまでの経験を含めて、あなた自身が第三者の立場の時もっとも印象に残っている言い合いになった場面を思い出してください。その場の雰囲気をどう思いましたか？
1. 別の場所に移動した
2. 大いに居づらく、どこか別の場所に行きたいと思った
3. かなり居づらいが、まだその場所に居ることができると思った
4. 居づらい
5. 少し居づらい
6. 何も感じなかった
7. その他